

JAMAデジタルエンジニアリングセミナー2026

デジタルエンジニアリング分科会 活動概要のご紹介

一般社団法人 日本自動車工業会

総合政策委員会 ICT部会
デジタルエンジニアリング分科会

分科会長

発表者 嵯峨 周司

2026年 3月13日

目次

1

総合政策委員会組織と当分科会の位置付け

2

デジタルエンジニアリング分科会基本方針

3

外部団体との連携

4

デジタルエンジニアリング分科会活動概要

5

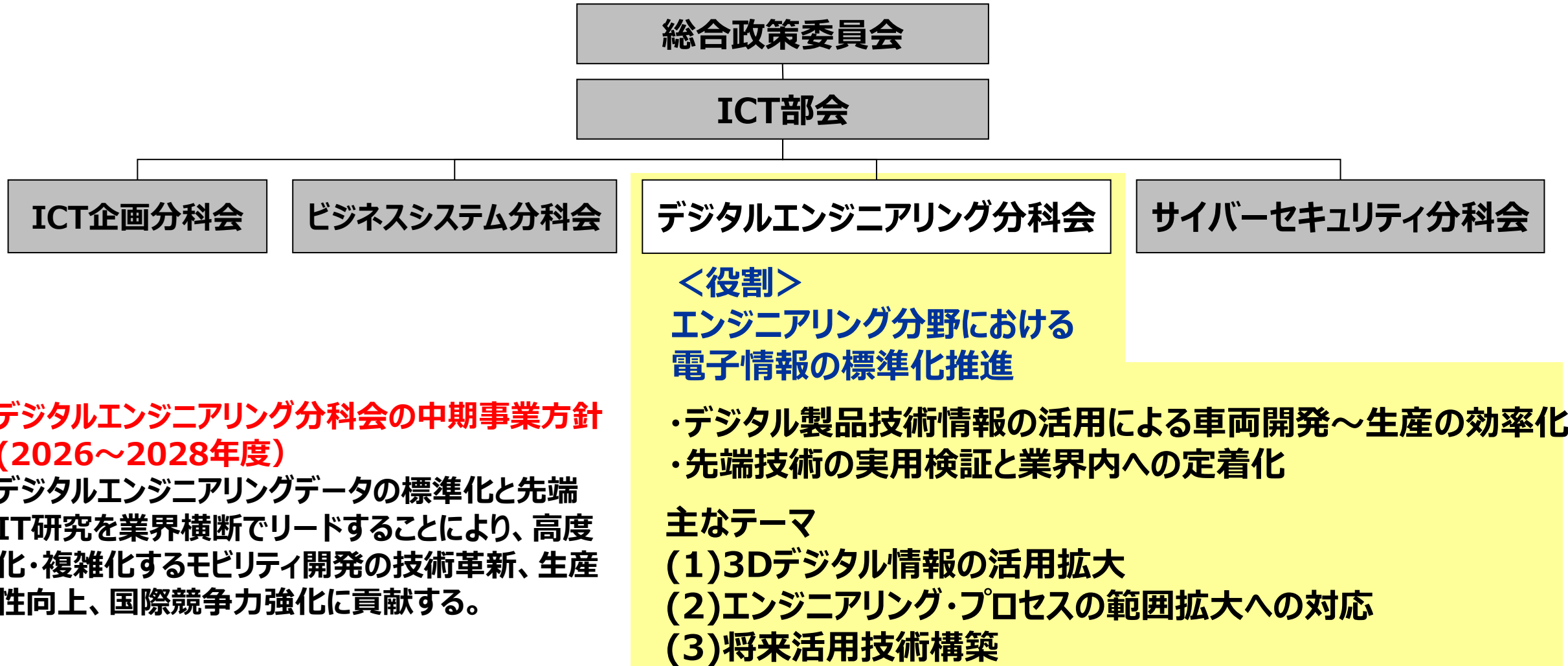
本セミナーの概要

6

当分科会の活動成果“ガイドライン”等の利用について

総合政策委員会組織と当分科会の位置付け

- 国際的視点を持ち、ITの活用を通してモビリティ産業の生産性向上に貢献する



デジタルエンジニアリング分科会の中期事業方針 (2026～2028年度)

デジタルエンジニアリングデータの標準化と先端IT研究を業界横断でリードすることにより、高度化・複雑化するモビリティ開発の技術革新、生産性向上、国際競争力強化に貢献する。

デジタルエンジニアリング分科会基本方針

「新7つの課題」 直近2・3年で特に優先的に取り組む

-デジタルエンジニアリング分科会 基本理念 -
個社では解決出来ない課題に業界として取り組み
業界を越えた標準化による基盤強化と
将来動向を踏まえた先端技術の実用検証により
質の高い新たな日本の「ものづくり」をリードする

- ① 重要資源・部品の安全保障
- ② マルチパスウェイの社会実装
- ③ サーキュラーエコノミーの仕組みづくり
- ④ 人材基盤の強化
- ⑤ 自動運転を前提とした交通システム確立
- ⑥ 自動車関連税制 抜本改革
- ⑦ **サプライチェーン全体での競争力向上**

引用：自工会「新7つの課題」に挑む新体制！（1/22） - jama blog -
 一般社団法人日本自動車工業会

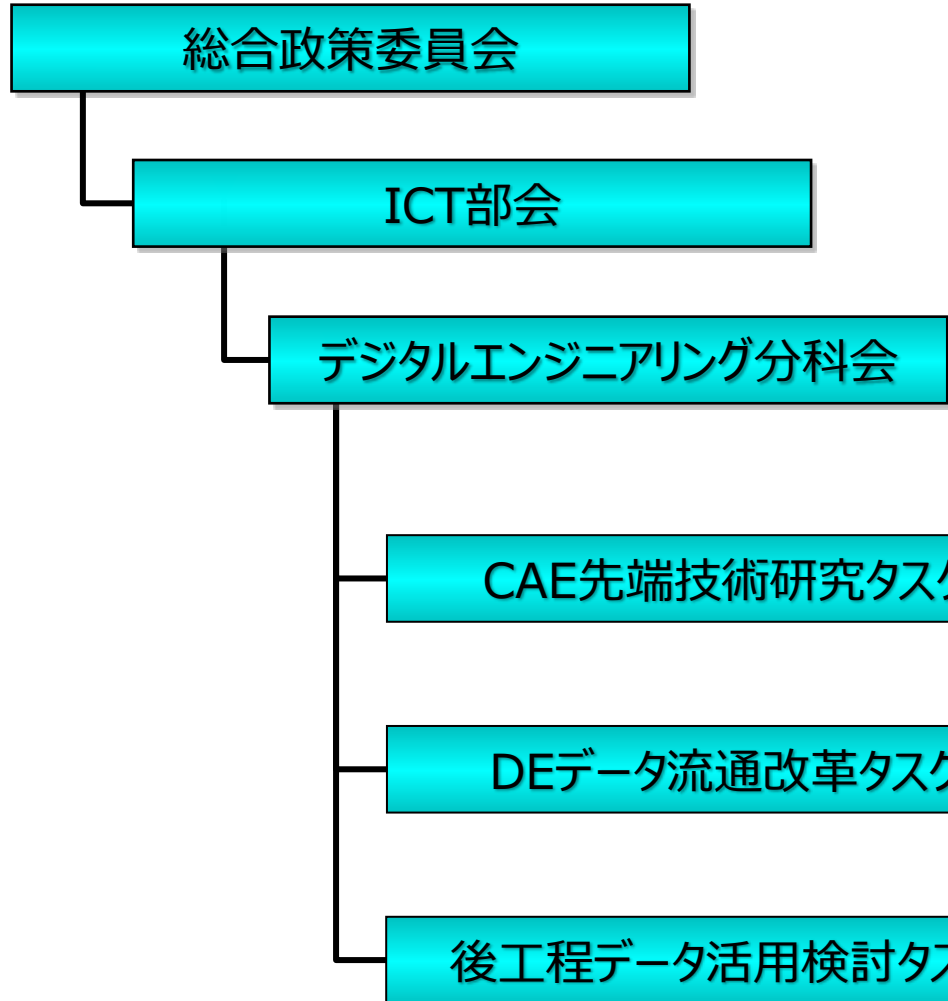
① ニーズを先取りした標準化、協調、先端技術研究にチャレンジ

- ✓ 標準開発と活用展開
- ✓ 業界共通の課題に協調して取り組み、実利の高い最適解を導出
- ✓ 新技術活用を加速し、業界内に定着

② 実利が期待できる新たなテーマを発掘し、活動体制を構築



デジタルエンジニアリング分科会活動概要



- DE分科会中期計画検討
- 新規活動テーマ検討・提案
- ものづくり標準データ推進協議会

標 協

- 機械学習/CAEなど先端技術開発用クラウドの調査・ベンチマークにより、業界のクラウド活用技術の底上げ

先

- 業界企業間のデジタルエンジニアリング(DE)データ流通の標準的な手法・運用を提案する

標 協

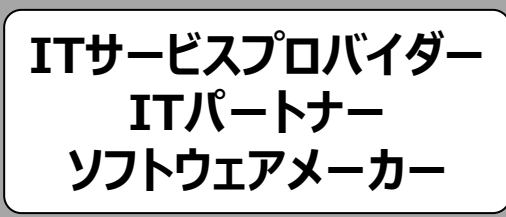
- 業界の製造・生産工程のQCD向上のためデジタルエンジニアリング(DE)データの活用基盤を構築する

標 協



外部団体等との連携

- 政府機関・国内関係団体：JIS化、ISO対応など、標準化開発推進面での協調
- 国際関係団体：ISO対応、ベンダーへの One Voice 活動
- ベンダー：開発した標準のツール実装要求、標準の共同開発、共同研究



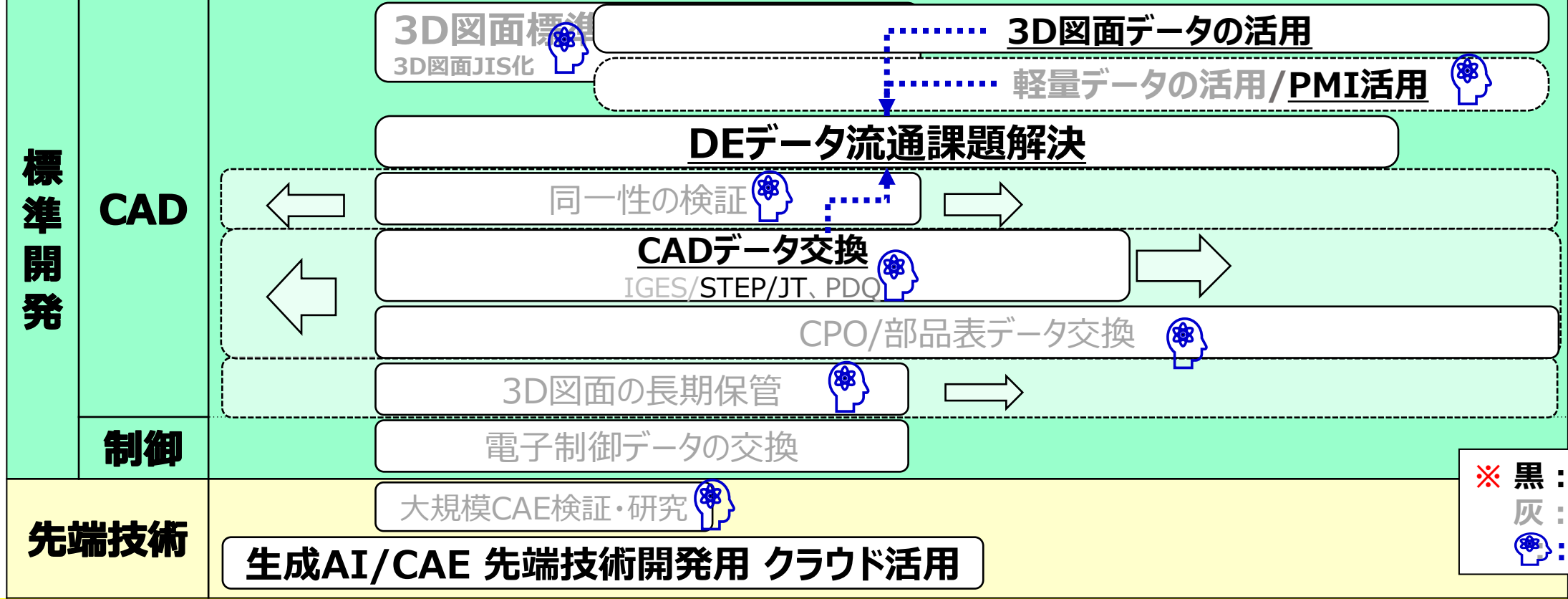
政府機関・国内関係団体



国際関係団体



業界の製品・サービス開発の効率向上を目指して



※ 黒：活動中
 灰：活動済
：知見

製品開発の協調課題を解き、先端技術の活用を促進し、業界の業務効率向上に貢献します

本セミナーの概要

～デジタルエンジニアリングで業界の未来を“かたち”にする～

*DE = デジタルエンジニアリング

タイトル	講演者	概要
日本自動車部品工業会 DE 部会の 25 年度活動紹介	JAPIA DX対応委員会 DE 部会 部会長 村越 輝美 様	日本自動車部品工業会 DE 部会における 2025 年度の活動内容について紹介する。 同部会は、幹事会、新 CAD-WG、新 E-IT-WG の 3 つの組織で構成されている。幹事会では、CATIA、NX、Creo を提供する IT ベンダー 3 社による講演を 3 月に開催し、業界動向の共有を行っている。 新 CAD-WG では CATIA・NX 研究会を通じて最新技術情報の収集・展開を行い、新 E-IT-WG では旬のテーマを選定し、1 月に講演を開催した。
DE データ作成/流通課題の概要とタスク取組体制	タスクリーダー 大谷 史樹	自動車メーカーと仕入先間におけるデジタルエンジニアリング (DE) データ流通の現状と課題の概要を明らかにするとともに、これらの課題に対応するための DE データ流通改革タスクの取組体制及び活動概要について説明する。
設計業務効率化に向けた CAD モデル検証と、その対策検討	タスクリーダー 大谷 史樹 タスク委員 皿海 慎也	DE データの作成及び流通には、さまざまな課題が存在する。これらに対応するため、各社の運用の参考となる「お手本データ」の作成、及び課題解決に向けた提案を紹介する。 さらに、データ変換検証を実施し、その結果を踏まえ、規格改訂要望、設計指針 (お作法集) の作成、ベンダーへの要望 (CAD 機能要求ガイドライン) 等の諸活動を実施したので、本講演では、これらの取組内容についても説明する。
DE データ流通の普及展開への取組み	タスク委員 千古 崇夫	自動車業界における企業間コラボレーションの促進を目的として、DE データ (3D データ・各種属性情報) のシームレスな流通の実現を目指している。 国際規格と現実の運用との間に存在するギャップの解消に向け、DE データ流通を各社に適用するためのルール整備や実務検証などを実施した。本講演では、その内容及び成果について紹介する。
デジタル技術を活用した新しい自動車モノづくりプロセスの提案と検証	タスクリーダー 小林 久紀	自動車産業の国際競争力強化には、OEM のみならず、サプライチェーン全体での効率化が不可欠である。本年度は、自動車部品ごとにサプライチェーンを含めたビジネスプロセスの現状分析及び課題の明確化を実施した。また、抽出した課題を起点として、ユースケースごとに運用ルールやデータフォーマットの標準化、及びそれらのデジタル情報と新技術を活用した新たなものづくりプロセスの提案に向けて取り組んでいる。本講演では、それらの内容について紹介する。
クラウド活用技術調査の取り組み - 設計開発業務における生成 AI 実用検証	タスクリーダー 松原 大	自動車メーカー各社において、先端技術開発のために素早く用意できるインフラとしてクラウド利用を始めており、業界全体として活用技術及び知見の底上げを図っている。本年度は、各社共通の先進技術調査をテーマとして、2024 年度に有用性が確認された設計開発業務におけるクラウド生成 AI 技術の実用検証、及び AI の回答精度向上に向けた技術検証に取り組んだ。本講演では、その活動内容について紹介する。
ものづくり標準データ推進協議会活動紹介	議長 嵯峨 周司 副議長、兼もの情WGリーダー 井一 義人 様 3DA WG委員 山本 隆邦 様	ものづくり標準データ推進協議会の組織構成、及び 2 つのワーキンググループを中心とした本年度の活動内容について紹介する。 1. ものづくり情報流通調査 WG 中小企業を中心とした部品メーカー、商社等へのヒアリングを通じ、製造現場における 3D 図面流通の課題の深堀及び対策立案 2. 3DA WG (3DA モデルによる機械加工(切削加工)の工程設計プロセスのスマート化) ダイキャスト粗材ケースの機械加工を対象とし、3D 図面からマシンリーダブルな情報を加工機に流し込むことによる工数削減、及びデータ活用基盤構築の検証

当分科会の活動成果の利用について

①. “JAMA IT標準” 検索



②. デジタルエンジニアリングに関する・・・を選択



③. 活動項目を選択

- [PDQ\(Product Data Quality:モジュール品質\)に関する活動](#)
- [3D図面の標準化に関する活動](#)
- [データ交換運用関連情報](#)
- [CAxデータ変換における同一性検証ガイドライン](#)
- [JAMA PLMシステムオープン性の定義書](#)
- [CAEクラウド活用ハンドブック](#)
- [部品表情報交換の標準化](#)
- [電子制御情報の交換](#)
- [製品属性情報の流通](#)
- [デジタルエンジニアリングセミナー2025](#)

④. ダウンロード



⑤. zip解凍



当分科会の活動成果は、自工会のホームページに公開し、どなたでも活用いただけます。
 ご活用にあたりましては、デジタルエンジニアリング活動の一層の普及・展開を図るため
アンケートにご協力いただけます様、よろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました

引き続きJAMA活動へのご理解とご協力を
宜しくお願い致します